

CONTENTS

	ページ
巻頭言 - 図書館長はなぜ偉いのか？ むかし、本には鎖がついていた - (微生物学 伊藤 正彦)	1
雑誌の動き	2
新着図書案内	
編集後記	

図書館長はなぜ偉いのか？

- むかし、本には鎖がついていた -

微生物学講座
伊藤 正彦

大学で誰が偉いかなどということはアホな質問ですが、制度上本学では学長、副学長の次に図書館長がきており、指定職になっています。

大学の施設は他にも動物実験施設、実験実習機器センター、その他の施設があり、それぞれ教授が施設長として存在して、選挙などで選ばれます。しかし図書館長以外は指定職ではありません。たとえ指定職でなくても図書館長は他の施設長よりも一目おかれています。なぜ図書館長だけが特別なのでしょうか？

それはやはり、図書館は「人間精神の宝の部屋」（ライプニッツ）であり、その「精神の宝」である本や雑誌を管理し、そして新たな宝（真理）を生み出すための静寂でかつ張り詰めた空間である図書館を大学人に提供する役目を担っている図書館職員の長であるからだと思います。それともう一つ理由があるように思われます。図書館の歴史の本を読みますと、ギリシャ、ローマ時代より王立や教会の図書館の存在はあったそうですが、中世の時代、大学の出現と共に図書館はだんだん充実されてきました。学問における本の重要性は昔も今もかわりませんが、印刷技術が発明される以前は本はひとりひとりが一字一句それを写すことによって作られていました。羊皮紙や紙なども値段が高く、大英博物館などで今でもみることができるといわれるほどの大きな本の表紙に宝石をちりばめたり、文章の書き出しのアルファベットを絵文字にしたり、絵を入れたり、本当に本は「宝」であり非常に高価なものであったようです。それを盗んで売れば大金を手に入れることができたらと思うられます。したがって重要な本には奴隷をつなぐような丈夫な鎖がついていて、閲覧できるが持ち出しができないようになっていたそうです。したがって精神の宝であり、かつ大学の重要な財産である本を管理する図書館長は伝統的に立派な人が選ばれ、指定職のような重い役職になったのではないかと思われます。

本学では女屋教授が図書館長ですが、本や雑誌の高騰、コンピュータ化、上がらない校費など図書館には様々な問題があり、おそらく女屋先生は毎日「円」相場を心配していると思います。こうなってくると図書館長の「えらい」が甲州弁の「たいへんだ」の意味に非常に近くなってくるように思われます。女屋先生頑張って下さい。

雑誌の動き

新規

Critical care medicine	v. 27 (1999)-	手術部
Diabetes care	v. 22 (1999)-	臨床看護学
Graefe's archives for clinical & experimental ophthalmology	v.237(1999)-	眼科学
Nursing ethics	v. 6 (1999)-	臨床看護学
看護教育	v. 40 (1999)-	臨床看護学
看護教育	v. 40 (1999)-	地域・老人看護学
看護研究	v. 32 (1999)-	臨床看護学
看護研究	v. 32 (1999)-	地域・老人看護学
Computer today	v. 16 (1999)-	数学
ICUとCCU	v. 23 (1999)-	集中治療部
Innervision	v. 14 (1999)-	放射線部

中止

Acta psychiatrica Scandinavica	-v. 98 (1998)	精神神経科学
Asia pacific journal of pharmacology	-v. 13 (1998)	薬理学
British journal of pharmacology	-v.125(1998)	薬理学
British journal of plastic surgery	-v. 51 (1998)	皮膚科学
European heart journal	-v. 19 (1998)	薬理学
European journal of pharmacology	-v.362(1998)	薬理学
Journal of affective disorders	-v. 51 (1998)	精神神経科学
Journal of cell biology	-v.143(1998)	第二病理学
Journal of clinical forensic medicine	-v. 5 (1998)	法医学
Journal of medical ethics	-v. 24 (1998)	臨床看護学
Klinisches Labor: Clinical laboratory	-v. 44 (1998)	法医学
Molecular pharmacology	-v. 54 (1998)	薬理学
Naunyn-schmiedeberg's archives of pharmacology	-v.358(1998)	薬理学
Osteoporosis international	-v. 8 (1998)	臨床看護学
Poetica	-v. 50 (1998)	英語
Science & justice	-v. 38 (1998)	法医学
Seminars in anesthesia	-v. 17 (1998)	麻酔科学
Trends in cardiovascular medicine	-v. 8 (1998)	薬理学
実験医学	-v. 16 (1998)	薬理学
臨床モニター	-v. 9 (1998)	麻酔科学
Internet magazine	-v. 98 (1998)	実験実習機器センター
UNIX magazine	-v. 13 (1998)	実験実習機器センター

編集後記

朝、館内の清掃をしていると、この季節頃から、国家試験等のための参考書だけが置いてある机が、いくつか見受けられるようになってきます。まだ試験の季節とはいえませんが、全学生の試験のピークは1月から2月ころになり、その頃になると館内は席が全部埋って学生さんたちの熱気であふれることもあります。勉強にがんばってほしいのですが、看護学科も増えたことでもありますので、使わない時は、他の人もいつでも利用できるよう、せめて机の占有だけは遠慮してほしいと思うこの頃です。(Y.K)



編集 / 発行	山梨医科大学附属図書館		
<TEL> 直通	73 - 9353	情報管理係	内2108
図書課長	内2106	情報サービス係	内2109
総務係	内2107	カウンター	内2110